

ヒメコウホネ

Nuphar subintegerrimum (Casp.) Makino

スイレン科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

生育地がごくわずかしかなく、形態的にも特徴の著しい地域個体群である。(現況:V-)

形態

抽水葉はコウホネより小型で円みを帯び、長さとの比は1.2~1.7くらい。沈水葉は抽水葉と同形でコウホネのように細長くない。花は径2.5~4cmでコウホネより小型。本県に見られる個体群は、浮葉をつくらないことや、柱頭盤が発達せず柱頭の先が鋭頭になるなど、一般的なヒメコウホネとは異なる。コウホネと共通する特徴もみられるが、コウホネとの形態的な連続性は認められない。

国内分布

本州(中西部)、四国、九州。

県内分布

加賀中央区。

生態など

高さ20~60cmほどの抽水性の多年性草本。

生育環境

山間の池沼、低地の水路などに生育する。

危険要因

池沼開発、河川開発、園芸採取。

特記事項

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑. 文一総合出版.
ヒメコウホネとしてまとめられている植物群自体にはもともと変異が多く、本県の個体群の分類学的位置付けには今後の研究が期待される。



白井伸和・2001年7月22日・金沢市

分布図はありません。

県内の分布